

2022(令和4)年度沖縄県若年性認知症支援推進事業  
本人家族交流会 若年性認知症カフェ 報告書

**若年性認知症カフェ**

目的：若年性認知症カフェ内で、ご本人と介護家族の交流を深め、孤立しやすい若年性認知症のご本人と介護家族のネットワークづくりを促す。

当カフェの特性

- ・ 孤立する県内の当事者及びその支援者にピアカウンセリングの場を提供する。  
就労型活動自助グループの活動の場として提供し、当日初めて参加される当事者とその家族との交流を、自助グループの方に積極的に行っていただけるよう依頼している。
- ・ 経験と技能を活かす場をめざす。交流会の場も活動の場として提供し、それぞれの活躍の場を増やすよう支援する。例：ギターや英会話などそれぞれの特技を活かした教室の開催等
- ・ カフェ内で当事者の意見を活発に頂く。施策へ反映されるよう、意見をまとめる。

1. 日時：2022年6月18日(土) 1回目：13時～14時 2回目：15時～16時 定員各6名  
【会場】 新オレンジサポート室（宜野湾市普天間1-9-3）

2. 本日のプログラム 各回：交流会（近況報告）

3. 参加者数 1回目 4人（内訳：当事者0名、家族3名、専門職1名）  
2回目 6人（内訳：当事者2名、家族3名、専門職1名）

4. 当日の様子

梅雨時期のカフェ開催です。先月、参加者から普天間宮の境内散策の要望があり、問い合わせをしたのですが梅雨時期は足元が滑りやすいということで来月へ開催を変更予定としました。新規の参加者3人と久しぶりの参加者もあり…近況報告で「症状悪化で入院となった。家族として入院させてしまった自責の念に駆られている」という言葉に、介護経験のある家族から「自分たちも経験したが、治療が必要なことはある。家族が自責しない為に考え方を変える」等、気持ちの整理の方法策をお話して頂きました。“認知症という病気について知識がないと戦えない、病気を理解することが大切で知っていくことで戦い方を計画出来る“というアドバイスが参加者の心に響きました。

5. 所感

一人一人、病気の症状が異なり、治療が必要な場面もあります。入院治療に関して家族が自責の念に駆られる事は、全ての方にあると思います。家族同士の会話で、その気持ちが緩やかになる…当事者同士、家族同士仲間と繋がって悩みが整理されていく場面を常に見ていて…ピアカウンセリングの力を感じております。お話しが盛り上がり…写真撮影を忘れてしまいました(◎\_◎;) お土産は男性ケアマネージャー作、ガトーショコラケーキです(^\_^)♪。



以上